日吉大社自然観察倶楽部通信

No.15　きのこ染め・草木染め　　Ｈ２４年１０月２８日

あいにくの雨の天気の中、日吉会館できのこ染めと草木染めをしました。

昔から、人は自然からいろいろなものを享受してきました。その中の一つに「色」があります。草や木の皮から煮出した汁で糸や布を染める技術を、草木染めと言います。私たちも以前、モミジやカツラ・柿の葉で草木染めを行いました。

(⇒通信２・草木染め)　今回は趣向を変えて、キノコを使います。

ヒイロタケ

コツブタケ

左の写真のキノコで布を染めようと試みます。さて、どんな色に染まるか楽しみです。

左側の写真は「ヒイロタケ」といいます。桜などの広葉樹の枯れた枝や切り株から生えてきます。ヒイロとは漢字では緋色と書き、朱色のような色を表します。木を分解する働きをしていて、固まって生えています。

右側の写真は「コツブタケを切ったところ」です。元気な松の根元に生えます。マツタケの親戚と言ってもいいかもしれません。ジャガイモのような外見ですが、食べられません…。普通キノコの胞子(植物の種のようなもの)はホコリ状なのですが、コツブタケの胞子は粒(つぶ)状です。夏から秋に発生します。

この２つと柿渋(通信１・柿渋作り)を使って、いよいよ染め物に挑戦です。

工程は以下の通りです。

① 染めるキノコを細かく刻む
② 濃染剤に布を１５分つける
③ キノコを２０分程煮出す
　⇒煮汁をこす
④ 湯通しした布を煮汁に入れ、１５分煮る
⑤ ミョウバン(媒染液；ばいせんえき)
　につける
⑥ 布をまた１０分煮る ⇒ 干す

ヒイロタケを煮ているところ

右の写真は③のキノコを煮出す工程です。色が出ているのが分かるでしょうか？ヒイロタケをお湯に入れた瞬間、山吹色が出てきました。

一方、コツブタケは、煮汁が茶色でした。コーヒー色と言えばいいでしょうか？

ヒイロタケと同じく、色がすぐ出て、歓声が上がりました。実は、既に手に茶色が付いていました。①のキノコを細かく刻む工程の時から…

左の写真は、コツブタケの煮汁で布を煮たところです。⑥の布をまた１０分煮る工程の後です。とても濃い茶褐色の煮汁で、布がその色に染まっています。

そして、忘れてはいけない草木染めの柿渋は、上の行程の②から⑥とほぼ同じように行いました。柿渋は液体なので、刻む工程はいりません。そのまま煮出して、布をつけました。ただ、天然の柿渋には、もれなく匂いも付いてきます。換気扇を回しながら、作業を続けました。

ようやく、完成したきのこ染め・草木染めが右の写真です。左から、コツブタケ・ヒイロタケ・柿渋の順番です。私の印象で文字に色付けしてみましたが、皆様の目にはどんな色に映るでしょう？薄い絹で染めていますので、光の当たり具合によっても色が変わってきます。藍染めや桜染めには勝てませんが、優しい色合いに染まったと思います。

白い布が様々な色に染まるのが染め物の魅力であり、不思議な点です。また、⑤で触れた媒染液の種類によっても、染まる色が変わってきます。科学的な染料が多い今の時代ですが、自然の色がもっと見直されてもいいと思います。帰りに、日吉会館の裏で、切り株の根から小さなヒイロタケを見つけて、そう感じました。
自然はたくさんの色を持っています。色づき始めたモミジの葉っぱも緑・黄色・オレンジ・赤など多くの色が混ざっているのですから。

日吉大社自然観察倶楽部のＨＰが出来ました。今までの通信や活動予定などを載せています。Google や Yahoo で検索するか、日吉大社様のＨＰから左のバナーをクリックしてください。

日吉大社自然観察倶楽部ＨＰ

http://hiyositaishasizenkansatu.jimdo.com